

## 名古屋市名東区明徳公園の蜻蛉と蝶

高崎 保郎

〒465-0026 愛知県名古屋市名東区藤森一丁目14

### Dragonflies and Butterflies of Meitoku Koen Park, Meito-ku, Nagoya, Aichi Prefecture, Japan

Yasuo TAKASAKI

14, Fujimoriittyyome, Meito-ku, Nagoya, Aichi, 465-0026, Japan

#### 要旨

自然環境としては、余り関心もたれることのない名東区所在の明徳公園の蜻蛉と蝶の過去と現在の記録である。例え限られた分類群だけと雖も、これをもって総体的な自然の状態の良否を或る程度類推することは可能である。

保全活動や啓蒙運動は熱心に行われていても、正確にその地の生物相の過去と現在の状況が把握されているとは言い難い他の市内公園・緑地の場合も、自然環境基礎資料の収集、記録の重要性に留意することが望まれる。本稿がその一つの嚆矢となれば幸いである。併せて本市都市公園・緑地に於る昆虫相調査上の問題点について考察した。

#### はじめに

市内には名古屋市都市公園条例等に基づく公園・緑地が多数あるが、この内二次林や水系がかなりの面積を占め、市内に残存する自然拠点と見做し得る公園・緑地は20から30ヶ所程であろう。これらの施設の内、昆虫に関して各々の分類群の専門家により継続的に調査され、同好会、研究会、関係機関等により発行された然るべき印刷物にその正確なリストが公表されているのは次の例を知る位である。猪高緑地（トンボ・チョウ）、名古屋城と周囲（同）、平和公園（同）、守山区志段味地区（同）、明徳公園（トンボ）、東山公園（同）、島田緑地（トンボ、半翅目）。

さて、明徳公園についてはトンボに関して一定のまとめ（高崎，2010）はしたが、余り魅力的なフィールドとは思われないので頻回には訪れていなかった。然し、2015年健康維持の一助として極力通うようにしたので、この折角の機会を活用し、あらためてチョウとトンボの再確認を行った（図1）。



図1 名古屋市内の関係公園・緑地の所在

## 1. 明徳公園の概要 (図2~8)

### (1) 経緯

明徳公園の所在場所は名古屋市東部丘陵地帯に属するかつての愛知郡猪高村の山林、耕地、小集落であった。昭和30年名古屋市と合併千種区を経て名東区になった。昭和37年猪子石土地区画整理組合事業区域に入り、周囲の山林、耕地は全て造成宅地化されたが、この場所だけは公園用地として林は温存された。園内の高みの地下に貯水槽を設け運動場とし、遊歩道、駐車場、平坦地や斜面に芝生広場等が造られたが、この林の大部分は残存する。園内の明徳池のため池としての築造時期は不明であるが寛文年間(1661~1673年)には存在していた。池は昭和50年代初期迄に堰堤法面をブロック張りに改修し、同58年にはそこを階段式釣場にし人工化が著しくなった。

### (2) 現状

面積21.2ha、起伏の激しい低丘陵地形と若干の平坦及び斜面のシロツメクサ群落を伴う芝生草地がある。大部分はヒサカキ、カシ類、コナラ、アベマキ、ネジキ、ガマズミ類を主とする雑木林で、高木の樹冠と優占する小高木、低木の常緑樹に覆われ、猪高緑地や平和公園の林に比べ暗い。当地方に普遍的なアカマツ-コナラ二次林にあって、この地のアカマツは本来か松枯れによるものか判らないが意外に少ない。林縁はアカメガシワ、ヤマウルシ、ヤマハゼが、林床はケネザサとシダ類が優占する。その他かなりの竹林やマテバシイ、ユキヤナギ等の植栽、愛護会による小規模な花壇、ミカン科果樹園等からなる。宅造前の昭和30年の航空写真と比べると、宅造公園化後の方が植生回復し、むしろ林域は広がっているように見受けられる。

水域としては明徳池の他、湧水が塞ぎ止められて生じた林縁の水溜りの小池、小規模な半人工湿地、立入り出来ない排水池があるが、流水を欠く。

林を構成する樹種の例を示す。

スイカズラ、ウツギ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、クサギ、トウネズミモチ、イボタノキ、ウスギモクセイ、ヒイラギ、シャシャンボ、ネジキ、サワフタギ、コバノミツバツツジ、タラノキ、ヤツデ、カクレミノ、ハリギリ、タカノツメ、アオキ、ナワシログミ、サンカクズル、イソノキ、ウメモドキ、イヌツゲ、ソヨゴ、ヌルデ、ヤマ



図2 明徳公園略図  
表示のある所以外は概ね林、-----主要林内遊歩道

ハゼ、ヤマウルシ、イヌザンショウ、アカメガシワ、カマツカ、アズキナシ、ノイバラ、ヒサカキ、サカキ、ミツバアケビ、ヤマコウバシ、クスノキ、イヌビワ、ヒメコウゾ、ヤマグワ、エノキ、ムクノキ、アベマキ、コナラ、アラカシ、シラカシ、ウラジログシ、マテバシイ、オオバヤシャブシ、ヤマモモ、ケネザサ、アカマツ。

## 2. 他施設との比較

明徳公園は左程広くなく、隣接又は近接する緑地も無い。比較的近い昆虫が飛来可能な他の緑地は1.8km隔たる猪高緑地、2.45km隔たる平和公園一帯である。

各々の施設で記録されたトンボとチョウの種数は、調査期間、調査密度の差等人為的影響を多分に受けているので一概には言えないが概略を見ると次のようである。

猪高緑地は2002年迄ほぼ同面積の長久手市長湫の耕地、二次林と稜線で接し広大な種々の棲息環境を有する一塊の緑地を成していた経緯と水域の多様性に恵まれ、二次林帯としては同じ東部低丘陵にあって基本的環境としては同じであるが、チョウ・トンボ共種数やその希少性において明徳公園を凌駕している。

平和公園一帯は割に早い時期に都市化が進んだ地域ではあるが、現在も東山公園、天白区北部の緑地に近く、チョウの場合は昔も今も調査密度が高いことと相まち記



図3 西側稜線東斜面の樹林と芝生広場



図6 ハンゲシヨウ等湿生草本に鬱閉された半人工湿地



図4 西側稜線



図7 明徳池. 一隅に残るヨシ群落と対岸の直線護岸魚釣場



図5 西側稜線東裾内のギャップ



図8 廃田湿地埋立て裸地と林縁に生じた水溜的小池

表1 対象施設の状況と記録種数

施設名	面積	立地 主たる植生	水域	トンボ		チョウ	
				調査期間	記録種数	調査期間	記録種数
明徳公園	21.2ha	市街地内孤立 二次林	旧ため池, 水溜の 小池, 半人工湿地	1964~2015	39 (21)	1975~2015	41 (41)
猪高緑地	66.2ha	市街地内孤立 2002年迄長湫丘陵に隣接 二次林	旧ため池多数, 復活 水田, 湿地	1975~2013	51 (30台)	1975~2013	50 (40台)
平和公園一帯	北部 97ha 南部 50ha	市街地内孤立 東山方面緑地に近接 二次林	小池, 人工池, 人工的細流, 湿地	2002~2013	29 (29)	1972~2010	64 (40)
島田緑地	2.9ha	市街地内孤立 狭小 二次林	旧水田由来の湿地・ 小池多数, 湧水, 細流	1980~2014	40 (28)	1980~2014	11 (11)
名古屋城と 周辺	三の丸と併せ 130ha	市街地内孤立 築城時針葉樹 後年広葉樹植栽・自生	水堀, 城郭内小池	1947~2009	37 (10)	1947~2009	37 (25)

\* ( ) は至近の数年間の記録種数

録種数は倍近い。トンボに関しては昭和20~30年代には誰も関心を持たなかった現星ヶ丘山手所在の新地が近年水生植物や周囲の木本の増加により好環境を呈するに至り(外来生物問題はさて置き), 以前より棲息種は増え衰退した明徳池とは対照的である。

島田緑地は狭い面積に拘らずかつての湿地帯由来の優れた水域の多様性に支えられて棲息するトンボの種類は多い。ハッチョウトンボも子孫が残存している。チョウは調査不足である。

名古屋城とその周囲は市街地の只中であって良くチョウの種を保存して来たと言えるが、トンボは主体となる水堀の水生植物の喪失, 水質悪化により壊滅的である。

正確な棲息種数は判らないが、牧野ヶ池緑地や天白公園では比較的良好な水環境を好むトラフトンボ(牧野ヶ池, 大根池), ベニイトトンボ(大根池)やマルタンヤンマ(大根池)が近年でも記録され, その希少性の点からでも明徳公園の上を行く。

結論としては、トンボ、チョウから見て明徳公園の自然環境の状況は、同じ東部低丘陵地帯に立地する都市公園の中では下位にあると見られる。比較した他施設の状況と産するトンボ、チョウの種数の概況を表1にまとめる。

### 3. 蜻蛉相の推移

古い自然度の高い明徳池と池畔の水域が、公園整備の為の強度の人工化と、宅造による周辺緑地の潰滅の影響により、今日に至る迄にその蜻蛉相がどの様に衰退して来たかを概観する。

**第1期 区画整理事業以前の昔, 1962年(昭和37年)以前**  
昆虫調査の記録はない。

**第2期 区画整理事業が開始される前後の1964年から1971年**

全て故山本悠紀夫氏の記録による。分布する種から考察すると当時池には浮葉植物等水生植物が繁茂する良好な状態であったと推察される。国土地理院の昭和43年現地調査の地図を見ると、既に東名高速で分断されているもののこの頃は池下方に広がる水田はまだ残存していたようである。次の16種が記録されており、フタスジサナエ, オグマサナエがまだ棲息する時代である。

オオイトトンボ, モノサシトンボ, オオアオイトトンボ, フタスジサナエ, オグマサナエ, クロスジギンヤンマ, ギンヤンマ, シオカラトンボ, シオヤトンボ, オオシオカラトンボ, ヨツボシトンボ, コフキトンボ, マイコアカネ, マユタテアカネ, キトンボ, チョウトンボ。

### 第3期 造成完了し、孤立緑地となってからの1975年から1987年迄

1974年公園近傍に居所を移したので以降は時々調査実施。宅造地にまだ家は多くなく草地化し、周辺では所々にヨシが生える湿地の面影を残す所が多少残存していた。明德池は1971年、1972年、1976年の度重なる改修と1983年の釣堀化により著しく劣化した。1980年迄は池頭に広い廃田湿地が残存し、向陽湿地性種がハッチョウトンボを始め6種棲息していた(図9)。一方では、「緑の名東区、ハッチョウトンボのいる名東区」を謡いながら、市自ら同年夏以降この湿地を残土で埋没した。埋立跡の裸地は現在に至るも殆ど利用されることなくそのまま残存する。

植生喪失、魚釣による富栄養化も加担した水質汚濁の進行により、池本体に由来する種は、この期間に新発見の種は有ったものの、水生植物が存在する環境に依存するオオイトトンボ、ヨツボシトンボ、コフキトンボ、チョウトンボ、羽化場所として汀に平らな場所を要するサナエトンボ類などが居なくなり種数は半減した。モノサシトンボは池の隅に少し残存したヨシの陰で細々とこの期間は生き永らえた。

水域の劣化が進むものの継続調査により調査密度が前期よりは高かったので公園全体としては記録種数は次の21種に微増した。

モートンイトトンボ、アジアイトトンボ、セスジイトトンボ、モノサシトンボ、ウチワヤンマ、ヤブヤンマ、マルタンヤンマ、オニヤンマ、オオヤマトンボ、タカネトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、オオシオカラトンボ、ハッチョウトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、ヒメアカネ、リスアカネ、コノシメトンボ、コシアキトンボ。

### 第4期 稀にしか行かず調査密度が低下した1991年から1997年迄

水田時代その後の廃田湿地を涵養していた西側稜線からの湧水を埋立てで塞ぎ止めたため排水施設で処理し切れない水は土盛りの横に滞留し湿地の様な水溜を形成した。ここから発生したと見られるハラビロトンボ、シオヤトンボを確認した。池本体由来は3種のみで全体として次の7種を記録した。

オオヤマトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、マイコアカネ、リスアカネ、コシアキトンボ。

### 第5期 2008年及び2009年市ため池調査事業に伴う調査の2年間

池本体由来種は4種であった。第4期から始まった湿地様水溜りに溜まった水は増大し林縁に溢水し浅い水溜り様の小池を形成するに至った。この池で1965年以降記録が絶えていたオオアオイトトンボの幼虫が復活しているのが確認された。本種は1985年から1997年の間に樹林が茂る自宅庭に若い個体が少なくとも10♂8♀飛来した。1.6km隔たる猪高緑地からの飛来と推定される。この時点で明德公園では本種を確認することが出来なかった。自宅に近い本公園でも恐らく同様由来で飛来したものの定着であろう。クロスジギンヤンマ幼虫も得られた。この2年間の記録種は次の11種であった。

アジアイトトンボ、オオアオイトトンボ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、オオヤマトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ムユタテアカネ、リスアカネ、コシアキトンボ、ウスバキトンボ。

### 第6期 2010年から2015年

2010年から2014年迄は晩秋から初冬にかけてムラサキツバメ調査のため訪た折のついででの調査が主である。2012年に前記水溜小池でホソミオツネントンボを初めて確認した。同池では2011年にはマルタンヤンマ幼虫が得られている。

然し、この水溜小池と排水施設に繋がる水路では最近ザリガニの増加が著しく、主に水中の植物質につかまって浮遊状態で生活し底泥上には余り居ることのないオオアオイトトンボ、ホソミオツネントンボ幼虫を除いて、ヤンマ科、トンボ科のヤゴは大量のザリガニの捕食圧に耐えられないだろう。水路の日当りの良い岸にはゴウソ、イなどの湿生草本が生育し、明るい水路、林に接しやや暗い小池とでそれ程悪くない環境を呈しており、オオシオカラトンボ、コシアキトンボが常在し、5月には毎日クロスジギンヤンマも飛来し、時にハラビロトンボも見ると、これらが産卵しても幼虫が羽化する迄生存することはかなり困難であろう。折角の環境がアメリカザ

リガニのために機能していないと見られる状況である。2015年にここでの羽化を確認したのはオオアオイトトンボだけである。

稜線西下方に設置された半人工湿地は点在する2~3の開水面の面積が大変小さく、かつ日照が充分でなく向陽湿地を好む種は常在するオオシオカラトンボ以外は期待できない。林内ギャップで2~3回目撃したサラサヤンマは当公園内に棲息するならばこの場所しかないが、ここでは目撃することがなかったので、猪高緑地又は平和公園からの飛来の可能性が高い。

明徳池の水生植物は南西角にヨシの小群落が残存するのみで、ヨシ群落と岸の間の畦状の所に湿生植物のセリ、チゴザサ、ミソハギ等を見る位である。この池本体で見られるのは、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、シヨウジョウトンボ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ程度で、2015年にクロイトトンボ1♂、アオモンイトトンボ1♂、アジアイトトンボ1♀を各々唯1回だけ確認したがこれらは飛来であろう。

2010年から2014年の間の公園全体での確認種は次の6種である。

ホソミオツネントンボ、オオアオイトトンボ、マルタンヤンマ、アキアカネ、リスアカネ、シオカラトンボ。

2015年は62回調査し、採集又は目撃種は5。目録の年号2015で示した20種である。

以上1964年から2015年に至る52年間の変遷と現状の要約を次に記す。

(1) 明徳池が土の岸で水生植物が存在した1970年代初期迄は良好な環境を好む種を含む16種が記録されていたが、連続する改修人工護岸化、釣場化による富栄養化水質悪化が続く1970年代から1980年代には普遍的な8種程に半減。その後も減少が進行し、2015年迄に定着の可能性のある種は精査したに拘らず5種程当初の30%程度になった。

(2) 明徳池池頭に廃田湿地が存在していた1980年代迄は、モートンイトトンボ、ヒメアカネ、ハッチョウトンボ等典型的向陽湿地性種が見られた。

(3) 廃田湿地を涵養していた湧水は湿地埋立てにより1990年代に入り側方の林縁に浅い水溜的小池を形成し

た。この新棲息地の出現により、2000年代に入りオオアオイトトンボが復活、ホソミオツネントンボも初飛来し、一時ハラビロトンボ、シオヤトンボが羽化、クロスジギンヤンマ、マルタンヤンマ幼虫も棲息し、状況が好転したが、近年アメリカザリガニの著しい増加によりイトトンボ類以外はほぼ定着しなくなったと見られる。

(4) やや日陰の半人工小湿地はオオシオカラトンボしか定着していない。

(5) 余り良好とは言えない水域しかない本公園では2015年現在定着、推定飛来併せ52年間の総記録種39種に対し、20種51%しか確認できず、市東部低丘陵所在緑地群の中では顕著に劣る。

#### 4. チョウの記録

明徳公園のまとまったチョウの記録は知らない。多分本報が初であろう。1975年以来副次的に見て来たが、2015年あらためて再調査した。次にその概要を科毎に記す。

##### (1) アゲハチョウ科

ジャコウアゲハはウマノスズクサの自生も見ず、唯1回の飛来である。アゲハは多いがキアゲハは食草存否の関係から稀である。アゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハは園内での発生か周囲の住宅のミカン科植栽由来かが考えられるが多分両方であろう。カラスアゲハは時に複数見る。食樹は極く稀に林内、林縁でイヌザンショウを見るが、カラスザンショウはないようで、食樹の少なさから飛来の可能性もある。西側稜線でカラスアゲハ、モンキアゲハの蝶道形成を見るが、個体数が少ないので一度飛来後再び見るのに時間がかかる。

##### (2) シロチョウ科

モンシロチョウ、キタキチョウは多産するが、スジグロシロチョウは稀、ツマグロキチョウは見ない。

##### (3) シジミチョウ科

マテバシイの植栽とその後の一人生えがある。ムラサキツバメは2010年12月1日濡れた草地へ降りたムラサキシジミに混った1♀を採集したのが最初である。少数ではあるがミズイロオナガシジミを産することは、かつての里地の林の面影を残すものとして本公園では貴重である(図10, 11)。イボタノキはあるが猪高緑地では記録のあるウラゴマダラシジミは見ない。



図9 最後のハッチョウトンボ (左♂,右♀), 1980年6月22日採集



図11 ミズイロオナガシジミ (裏) (図10同一個体)

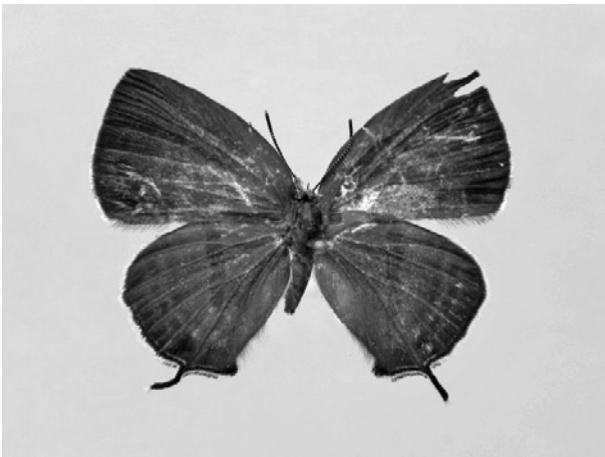


図10 ミズイロオナガシジミ (表), 2015年5月25日採集



図12 エノキ葉上のテングチョウ幼虫群集, 2015年5月27日撮影

#### (4) タテハチョウ科

幼木が多いが林縁にはエノキが散在し、テングチョウは多い (図12)。ヒオドシチョウも少ないが産する。ゴマダラチョウは以前から多くはないが2012年には2幼虫を得ている。然し、2015年には成幼虫共見られなかった。自宅庭のエノキにも2012年迄は飛来し晩秋幼虫も居た。ルリタテハの食樹サルトリイバラは散在する。秋期ヒメアカタテハは普通である。日進市を中心に市東南部方面で分布を拡げたホシミスジは、ユキヤナギの列植が西側道路沿いや園内に少なからずあるけれども、ユキヤナギ群落では1頭を採集しただけであり、2015年時点では飛来と見られる。周辺住宅街ではユキヤナギが植えられている所も多く、同年自宅庭では2回目撃されている。

ジャノメチョウ類は典型的の平地性種だけで、ヒメウラ

ナミジャノメのみ多産し、ヒメジャノメ、クロコノマチョウは稀、サトキマダラヒカゲはやや普通である。

#### (5) セセリチョウ科

イチモンジセセリ等極く普通種3種だけである。

1975年から2015年の間に41種が記録されたが経年変化はゴマダラチョウがこの2~3年見られなくなったこと以外目立っては無いと思われる。個体数は総じて多くない。猪高緑地と平和公園で記録があるアカシジミ類、ミドリシジミ、コツバメ、ホソバセセリ、ミヤマセセリ等を欠き明らかに自然環境としては劣る。

### 5. 目録

#### (1) トンボ目 ODONATA

#### アオイトトンボ科 Lestidae

ホソミオツネトンボ *Indolestes peregrinus* (Ris) 23-IV-2015, 1♂

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys 13-VI-2015, 羽化目撃; 4-X-2015, 1♂

#### モノサシトンボ科 Platycnemididae

モノサシトンボ *Copera annulata* (Selys) 25-V-1971, 3♂2♀, 山本悠紀夫; VII-1987, 目撃多数

#### イトトンボ科 Coenagrionidae

クロイトトンボ *Paracercion calamorum* (Ris) 2-VI-2015, 1♂目撃

セスジイトトンボ *P. hieroglyphicum* (Brauer) 20-VII-1980, 1♂

オオイトトンボ *P. sieboldii* (Selys) 27-IX-1970, 3♂2♀, 山本悠紀夫

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris) 14-VI-1975, 1♂1♀

アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur) 7-X-2015, 1♂

アジアイトトンボ *I. asiatica* Brauer 7-V-2015, 1♀

#### ヤンマ科 Aeshnidae

サラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri* (Martin) 25-V-2015, 1♂目撃; 22-VI-2015, 1♂目撃

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys) 23-VI-2011, 1♂, 白谷由紀子

ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys) 22-VIII-1985, 1♀

ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys) 27-VII-2015, 1♂1♀目撃

クロスジギンヤンマ *A. nigrofasciatus* Oguma 22-V-2015, 2♂

#### サナエトンボ科 Gomphidae

ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus* (Fabricius) 14-VII-1985, 1♂撮影; 23-VIII-2015, 1♀目撃

オグマサナエ *Trigomphus ogumai* Asahina 18-IV-1971, 4♂1♀, 山本悠紀夫

フタスジサナエ *T. interruptus* (Selys) 18-IV-1971, 2♂1♀, 山本悠紀夫

#### オニヤンマ科 Cordulegastridae

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys) 28-IX-1986, 2exs. 目撃

#### エゾトンボ科 Corduliidae

タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Förster 28-IX-1986, 1♂目撃

#### ヤマトンボ科 Macromiidae

オオヤマトンボ *Epophthalmia elegans* (Brauer) 3-VIII-2015, 1♂目撃

#### トンボ科 Libellulidae

チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys 15-VI-1969, 2♂, 山本悠紀夫

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys) 28-IX-1986, 1♂1♀; 30-VIII-1997, 1ex. 目撃

リスアカネ *S. risi* Bartenev 23-VIII-2015, 3♂

アキアカネ *S. frequens* (Selys) 8-X-2015, 6♂4♀

コノシメトンボ *S. baccha* Selys 28-IX-1986, 1♂

ヒメアカネ *S. parvulum* (Bartenev) 17-X-1976, 1♂; 3-X-2015, 1♂

マユタテアカネ *S. eroticum* (Selys) 8-X-2015, 1♂

マイコアカネ *S. kunkeli* (Selys) 30-VIII-1997, 1♂

キトンボ *S. croceolum* (Selys) 27-IX-1970, 1♂, 山本悠紀夫

コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (Burmeister) 22-VI-2015, 1♂

コフキトンボ *Deielia phaon* (Selys) 21-IX-1970, 1♀, 山本悠紀夫

ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur 22-VI-1980, 2♂

ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* (Drury) 22-VI-2015, 1♀

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius) 3-X-2015, 1♂

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys) 28-V-2015, 1♀

シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys) 30-IV-2015, 1♂

シオヤトンボ *O. japonicum* (Uhler) 18-IV-1971, 1♂, 山本悠紀夫; 21-IV-1991, 1ex. 目撃

オオシオカラトンボ *O. melania* (Selys) 28-V-2015, 1♂

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* Linnaeus 14-V-1968, 1♂, 山本悠紀夫



(2) チョウ目 LEPIDOPTERA

セセリチョウ科 Hesperidae

キマダラセセリ *Potanthus flavus* (Murray) 2-VII-2015, 1ex.

チャバネセセリ *Pelopidas mathias* (Fabricius) 23-VIII-2015, 1♂

イチモンジセセリ *Parnara guttata* (Bremer et Grey) 28-V-2015, 1ex.

アゲハチョウ科 Papilionidae

ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* (Klug) 9-VIII-2013, 1♀撮影, 安藤孝久

キアゲハ *Papilio machaon* Linnaeus 30-IX-2015, 2exs.

アゲハ *P. xuthus* Linnaeus 24-IV-2015, 2exs.

クロアゲハ *P. protenor* Cramer 11-IX-2015, 1♂1♀

ナガサキアゲハ *P. memnon* Linnaeus 28-V-2015, 1♂

モンキアゲハ *P. helenus* Linnaeus 6-V-2015, 1♂

カラスアゲハ *P. dehaanii* C. Felder et R. Felder 19-V-2015, 2exs. 目撃

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* (Linnaeus) 14-VII-2015, 1ex.

シロチョウ科 Pieridae

キタキチョウ *Eurema mandarina* (de l'Orza) 20-III-2015, 1ex.

モンキチョウ *Colias erate* (Esper) 24-IV-2015, 1♀

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* Butler 12-IV-2015, 1♂

モンシロチョウ *Pieris rapae* (Linnaeus) 12-IV-2015, 1♂

スジグロシロチョウ *P. melete* Ménétrières 2-IV-2004, 1ex. 撮影, 安藤孝久

シジミチョウ科 Lycaenidae

ウラギンシジミ *Curetis acuta* Moore 25-V-2015, 1♀

ムラサキツバメ *Arhopala bazalus* (Hewitson) 5-X-2015, 2♀

ムラサキシジミ *Arhopala japonica* (Murray) 2-VI-2015, 1ex.

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (Bremer) 25-V-2015, 1ex.

ベニシジミ *Lycaena phlaeas* (Linnaeus) 12-IV-2015, 2exs.

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (Linnaeus) 30-IX-2011, 1♀

ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (Kollar) 23-IV-2015, 1♂

ツバメシジミ *Everes argiades* (Pallas) 12-IV-2015, 2♀

タテハチョウ科 Nymphalidae

テングチョウ *Libythea lepita* Moore 17-III-2015, 2exs.

アサギマダラ *Parantica sita* (Kollar) 4-X-2015, 1♀

ミドリヒョウモン *Argynnis paphia* (Linnaeus) 23-IX-2015, 2♂

メスグロヒョウモン *Damora sagana* (Doubleday) 20-X-2015, 1♀目撃

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* (Linnaeus) 23-IV-2015, 1♀

アサマイチモンジ *Limenitis glorifica* Fruhstorfer 18-V-2015, 1ex. 撮影, 安藤孝久

コミスジ *Neptis sappho* (Pallas) 30-IX-2015, 1ex.

ホシミスジ *Neptis pryeri* Butler 28-V-2015, 1ex.; 30-IX-2015, 1ex.; 4-X-2015, 1ex.

キタテハ *Polygonia c-aureum* (Linnaeus) 10-XI-2015, 1ex.

ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas* (Esper) 18-III-2015, 2exs.

ルリタテハ *Kaniska canace* (Linnaeus) 14-VIII-2015, 2exs.

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* (Linnaeus) 23-VIII-2015, 1ex.

ゴマダラチョウ *Hestina persimilis* (Westwood) 23-XI-2012, 幼虫 2exs.

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* Butler 30-IV-2015, 2exs.

サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* (Ménétrières) 23-VIII-2015, 3exs.

ヒメジャノメ *Mycalesis gotama* Moore 23-VI-2015, 1ex.

クロコノマチョウ *Melanitis phedima* (Cramer) 23-IV-2015, 1ex.

採集者名又は撮影者名の記載がある種以外は、全て高

崎の採集又は目撃である。

## 6. 名古屋市都市公園・緑地生物相調査上の問題点

明德公園の林道（遊歩道）で出会う人のほぼ100%は主として高齢の健康維持を目的としているらしい散策者と犬の老若散歩者である。たまに鳥写真コレクターと思われる人を見るが、定期的に行われている観察会、愛護会主催者の2~3人以外自然探究者と目される人に会うことがない。当地が程々の自然環境を有する意義は殆ど活かされていない。幼稚園・保育園の子供達が列をなし一生懸命歩いているのは微笑ましい。

採集し標本を調べ正確な名前を知ることが生物学の基本であることを理解せず、「とるのは写真だけ、残すのは足跡だけ」「観察したら逃がしてあげましょう」の迷句に惑わされ、生物衰退の主因は自然環境の悪化と消滅にあることを知らず、目の前の2、3の虫が居なくなることが、自然に対する重大な危害と映るだけの理解の欠除した一部の一般の人が非難のまなこを向け、馬鹿ばかしいことだが時に口論に至る。

一方、この問題に対する関係者の知識、関心も誠に薄いと言わざるを得ない。例えば、2009年度なごやため池生きもの調査事業に伴う締めリーダー・スタッフ座談会のまとめを見ても、発言に誤謬や曖昧さがある。曰く、「制度上の制約が無いのは鳥のみ、それ以外は採集行為を伴うので駄目」(正しくは市条例で捕獲を禁じているのは「鳥獣及び魚の類」だけであって、「爬虫類、両生類、無脊椎動物」の捕獲は何ら規制は無い。鳥は採らないからいいのだと言いたいのであろう)、「環境局が特別として採集許可を受けた」(正しくは条例上動植物の捕獲・採取は許可対象事項に該当しないので許可行為はあり得ない。承諾を求めたとの意であろう。表現に厳密さを欠く)。

事柄をよく弁えた人同士なら、所謂「見て見ぬ振り」「阿吽(アウン)の呼吸」で丸く済むこともあろうが、前述の如く誤った自然観にこり固まった人に対しては、確たる根拠を明示し白黒をはっきりさせなければラチが明かない。

最も穏当で全分類群関係者が納得し、実効が期待できる一方法として考えられるのは、現在は一過性調査年だけ或は予算化された希少種(レッドリスト種)調査期間

だけ有効の身分証、腕章発行だけで事足りるとする行政的発想を改め、然るべき人や組織に対する継続性ある身分証等の発行であろう。水戸御老侯の印籠は煩わしさや無用のトラブル排除に特効を発揮する。気になるであろう発行期間中の予算措置はボランティアを期待し必ずしも必要としない。市内に所在する県が定め管理している都市公園・緑地(牧野ヶ池、大高、小幡)は別途対応が必要である。随所に掲げられている、分類群毎異なる対応を考慮しない、一律「動植物を取らないでください」の立看板も一考を要すると思料される。

地域の正確濃密なファウナ・フローラの把握と永遠の記録の集積は、永続性をもった調査でしか成し遂げられない。レッドリスト種選定も長年に亘るデータの集積の賜である。このことこそがなごや生物多様性センターがその活動の第1の目的とする「なごやの生物多様性に関する生物の標本や文献などの情報の収集集積」に資するものである。

市のハビタットとして価値ある樹林地は殆ど制度上の都市公園・緑地に負っている。市の自然環境イコール「市都市公園・緑地」であり、市域の生物調査とは、「市都市公園・緑地」の調査と殆ど同義である。その実施に当り分類群毎に研究手法には多様性があることを充分理解の上、弛まぬ調査研究を円滑に行える環境を整えることにセンター及び関係部局は意を注いでもらいたい。

## 謝辞

名古屋市都市公園・緑地についての問い合わせに対し御配慮賜った緑政土木局今西緑地部長、同局企画経理課彦坂靖子さん、回答を煩わし種々資料を恵与下さった同局緑地部緑地利活用室の青山靖子さんに深甚の謝意を表する次第である。また、蝶の写真データを心よく提供して下さいました明德公園愛護会の安藤孝久氏に御礼申し上げます。

## 引用及び参考文献

- 安藤泰樹. 2011. 名古屋市千種区のエゾトンボの記録. 佳香蝶, 63(247): 79.
- なごや生物多様性保全活動協議会. 2012. 平成23年度生物多様性保全推進支援事業 都市部における生物多様性の保全と外来生物対策事業報告書. なごや生物多様性

- 保全活動協議会, 愛知. 211pp.
- 名古屋ため池生物多様性保全協議会. 2010. 2009年度なごやため池生きもの生き生き事業報告書, 名古屋ため池生物多様性保全協議会事務局, 愛知. 207pp.
- 大塚 篤. 2005. 名古屋市名東区猪高緑地の蝶. 佳香蝶, 57(223): 51-54.
- 大曾根剛. 2007. 名古屋市千種区平和公園の蝶相とその変遷 (1). 佳香蝶, 59(231): 39-48.
- 大曾根剛. 2007. 名古屋市千種区平和公園の蝶相とその変遷 (2). 佳香蝶, 60(232): 55-63.
- 白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会. 2015. 島田緑地自然生態園の植生及び昆虫相. 白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会, 64pp.
- 高崎保郎. 1986. 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ. ため池の自然, (4): 9-10.
- 高崎保郎. 1987. 名古屋市名東区及び日進市の溜池の注目すべきトンボ2種. ため池の自然, (5): 3.
- 高崎保郎. 1987. 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ (第2報). ため池の自然, (6): 13.
- 高崎保郎. 2009. 名古屋城及び周囲の動植物誌. ため池の自然, (47): 8-18.
- 高崎保郎. 2010. 名古屋市名東区の明德公園及び猪高緑地の蜻蛉相今昔. ため池の自然, (49): 12-18.
- 高崎保郎. 2011. 名古屋市名東区のムラサキツバメ. 佳香蝶, 63(248): 84.
- 高崎保郎. 2013. 塚ノ杵池の水抜き後のトンボ. ため池の自然, (54): 19-20.
- 高崎保郎. 2014. 半世紀余前の名古屋城の蝶類. 佳香蝶, 66(260): 75-78.
- 高崎保郎. 2014. レッドリスト種調査 (2014) に伴う名古屋市の蜻蛉分布知見若干. ため池の自然, (55): 7-13.
- 高崎保郎. 2015. 60年前の名古屋市東山と名古屋城の蜻蛉追憶. なごやの生物多様性, 2: 37-52.
- 横地鋭典. 2004. 2002年を主とした名古屋市千種区平和公園のチョウとトンボの記録. 佳香蝶, 56(218): 33-43.
- 横地鋭典. 2005. 名古屋市千種区平和公園のチョウとトンボの追加記録 (1). 佳香蝶, 57(222): 27-28.
- 横地鋭典. 2008. 名古屋市千種区平和公園のチョウとトンボの追加記録 (2). 佳香蝶, 60(233): 13-14.
- 横地鋭典. 2010. 名古屋市千種区のベニイトトンボの記録. 佳香蝶, 62(241): 10.
- 横地鋭典. 2013. 名古屋市中区三の丸周辺の2006~2007のチョウ等の記録. 佳香蝶, 65(255): 43-47.

